

“KANAGAWA”

# 福祉タイムズ

2003 12 No.625

発行日 2003年（平成15年）12月15日  
毎月1回15日発行  
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2  
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会  
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302  
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>  
編集発行人 清水勝夫  
定 価 100円（郵送料込）  
印刷所 神奈川新聞社  
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「将来を受けとめたい」富田潤さんは、パソコンの専門学校を卒業したが就職できない上に、ハンディー抱えながらどう生きていくか悩んでいた頃、神奈川県障害者自立生活支援センター（KILC）と出会う。事務局員となり多くの人と出会う中で、障害の有無を問わず人は対等だと実感する。「健常者とのコミュニケーションで戸惑うこともあるが、地域で生活を始めて本当に良かった。自分らしい生き方を探しながら、気持ちの通じ合う人間関係を作っていきたい」と優しさににじむ笑顔で話す。（写真・文 菊地信夫）



厚生労働省老健局長の私的研究会である「高齢者介護研究会」では、団塊の世代が高齢期を迎える二〇一五年を目処に、地域包括ケアシステムを提案しています。それは要介護高齢者の半数、施設入所者の八割が痴呆の影響を有していることから、痴呆性高齢者ケアを中核とする新しいケアモデルを確立し、三百六十五日・二十四時間の安心確保に向けた、切れ目ない在宅サービスの提供や自宅や施設にとられない多様な「住まい方」の実現など、新しいサービス体系の確立です。

そこで注目されてきた「小規模多機能サービス拠点」の整備。高齢者の生活圏域で完結される様々なサービスの提供です。地域の高齢者に関わってから十数年来待ち望んでいた、「居たまま老人ホーム」構想に一歩近づいてきたようです。これは数年前、ある業界紙の連載に書いた私の造語です。施設同様の安心と安全が確保されるなら、住み慣れた我が家が一番です。しかし現状はほど遠く、施設志向が高いのもうなずけることです。私が後期高齢期を迎える頃には、是非とも実現したいものです。ひたすらその日を夢見て頑張っている毎日です。

NPO法人かまくら在宅生活相談センター  
理事長 樽井彰子

## 目次

職場での人材育成を支えていくために……………	2・3
厚生労働省が来年度の年金制度改正(案)を示す……………	4
「自分らしく生きる」障害者フォーラム開催……………	5
福祉医療ネットワークの広がりをお願い……………	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ……………	7
連載・心のゆたかさをはぐくむ(9)……………	10・11